

東住吉中学校 校長室だより

令和4年度 No.7

ひまわり



令和3年5月16日(月)

本土復帰50年



皆さんは、「沖縄」にどのようなイメージをもっているでしょうか。旅行で現地を訪れたことのある人もいるでしょう。「温暖」「青い海」「珊瑚礁」など、南国の楽園的なイメージが浮かんでくるかもしれません。事実、年間多くの客が訪れる観光を主産業とする県です。コロナ前までは、年間1000万人を超える来客がありました。

しかし、そんな沖縄には悲しい歴史があります。先の大戦末期、1945年3月、米軍は慶良間（けらま）諸島に上陸しました。その後、主戦場は沖縄本島へ移っていきます。日本軍の沖縄守備隊は米軍に抗戦し、本土決戦への時間稼ぎのために戦いました。戦闘は熾烈（しれつ）を極め、戦没者は約12万人と言われています。（当時の沖縄県の人口は48万人）その中には、日本軍によって防空壕から追い出されて亡くなった人、集団自決を強要された人、毒薬を注射されて死んだ子どもたち、マラリアや飢えで死んだ人等、沖縄戦は地獄さながらでした。

その後、8月15日に終戦を迎ますが、沖縄はアメリカに完全支配されました。日本本土と行き来するにはパスポートが必要、通貨はドル、自動車は右側通行という時代が27年間続きました。そして、1972年5月15日、沖縄はやっと日本本土に復帰することができたのです。

昨日は、沖縄の本土復帰50年の節目でした。しかし、沖縄には、今なお広大な米軍基地が残されるなどの課題があります。戦闘機の発着音など米軍基地から出る騒音や、米兵による事件などは顕著な課題です。

沖縄の本土復帰50年の今、他国との間で懸念される事案があります。尖閣諸島（沖縄県石垣市）周辺で、石油埋蔵の可能性が指摘された後の1970年代以降、中国が尖閣諸島は古くから自国の領土であると主張しています。しかし、尖閣諸島は歴史的に日本固有の領土であり、国際法でも何ら問題はありません。

このようなことを考えた時、沖縄の米軍基地や日本の自衛隊の存在は、他国からの侵略を防ぎ、平和を維持するための抑止力になっているという考え方ができるのではないかでしょうか。

先日来、ウクライナで起きていることは、遠く離れた場所の問題ではないと皆さんに伝えてきました。尖閣諸島、北方領土など、日本の主権が脅かされる事態が継続していることに目を向けてほしいと思います。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

